

目次

I	テーマ設定の理由	26
II	研究目的	27
III	研究仮説	27
IV	研究構想図	27
V	研究内容	28
1	「社会科で育成すべき資質・能力」について	
2	「主体的・対話的で深い学び」について	
3	「社会的な見方・考え方」について	
4	「授業改善の具体的な方法」について	
	(1) 問いの設定の工夫とは	
	(2) ICT の効果的な活用とは	
	(3) 教師の手立ての工夫とは	
VI	授業実践（第 1 学年）	30
1	単元の概要	
2	単元の評価基準	
3	単元の指導と評価の計画	
4	本時の学習指導について	
VII	結果と考察	38
	研究仮説の検証	【結果】【考察】
VIII	成果と課題	47
1	成果	
2	課題	
IX	参考文献	48

＜中学校 社会＞

社会的な見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ生徒の育成 ～生徒の実態に応じた言語活動の指導の工夫を通じて～

宮古島市立平良中学校 教諭 垣花 雄盛

I テーマ設定の理由

これからの日本社会は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や急速に進化する技術革新等、変化が激しく予測困難な時代となることが予想される。

このような社会情勢の中で、中学校学習指導要領解説（社会編）においては、「子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行っていくことが重要である。また、学習活動については、『社会的な見方・考え方』を働かせることをより一層重視する視点に立ち、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの『言語活動』に関わる学習活動を一層重視すること」と示されている。

さらに、「令和4年度第1回宮古地区エリア型教科研究会」において、宮古管内の生徒の実態や各種調査結果等を踏まえ、特に課題となっているのは「言語能力の育成」であり、教科の特質に応じた「言語活動の充実」についての指導方法の工夫改善を行う研究が必要であることが共通理解された。加えて本市においては、国のGIGAスクール構想の施策の下、児童生徒1人1人の可能性を引き出す個別最適な学びの充実に向け、ICT機器を効果的に活用した授業づくりを一層推進している。

このように様々な角度から教育の質的転換・向上が求められる中、筆者は、これまで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、以下のことに取り組んできた。

- ①問い（発問）や授業形態、タイムマネジメントの工夫
- ②一人一台のタブレット端末を生かした授業づくりや授業実践
- ③教材研究を充実させるための研修会等への積極的な参加 等

しかしながら、これまでの実践を振り返ってみると、社会的見方・考え方を働かせながら資料を活用し、自分の意見を根拠を示して伝えたり、自分の意見を整理し書いたりすることに困難な生徒も多数いたこと、ICTの活用も含めた言語活動や協働的な学習の指導に効果的に取り組めていなかったことが、私自身の課題として浮かび上がってきた。

それらの要因として、「社会的な見方・考え方」の働かせ方や生徒の実態に応じた「言語活動」の実践、教材に対する発問の吟味（問いの設定など）に課題があったのではないかと考えた。また、これまでの取り組みは、目の前の生徒にとって、質の高い学びにつながっていなかったのではないかと考えた。

以上のことから、日々の社会科の授業実践の取り組みの中で、社会的な見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、その手立てとして、生徒の実態に応じた言語活動を充実させていくことが大切であると考え、本テーマを設定した。

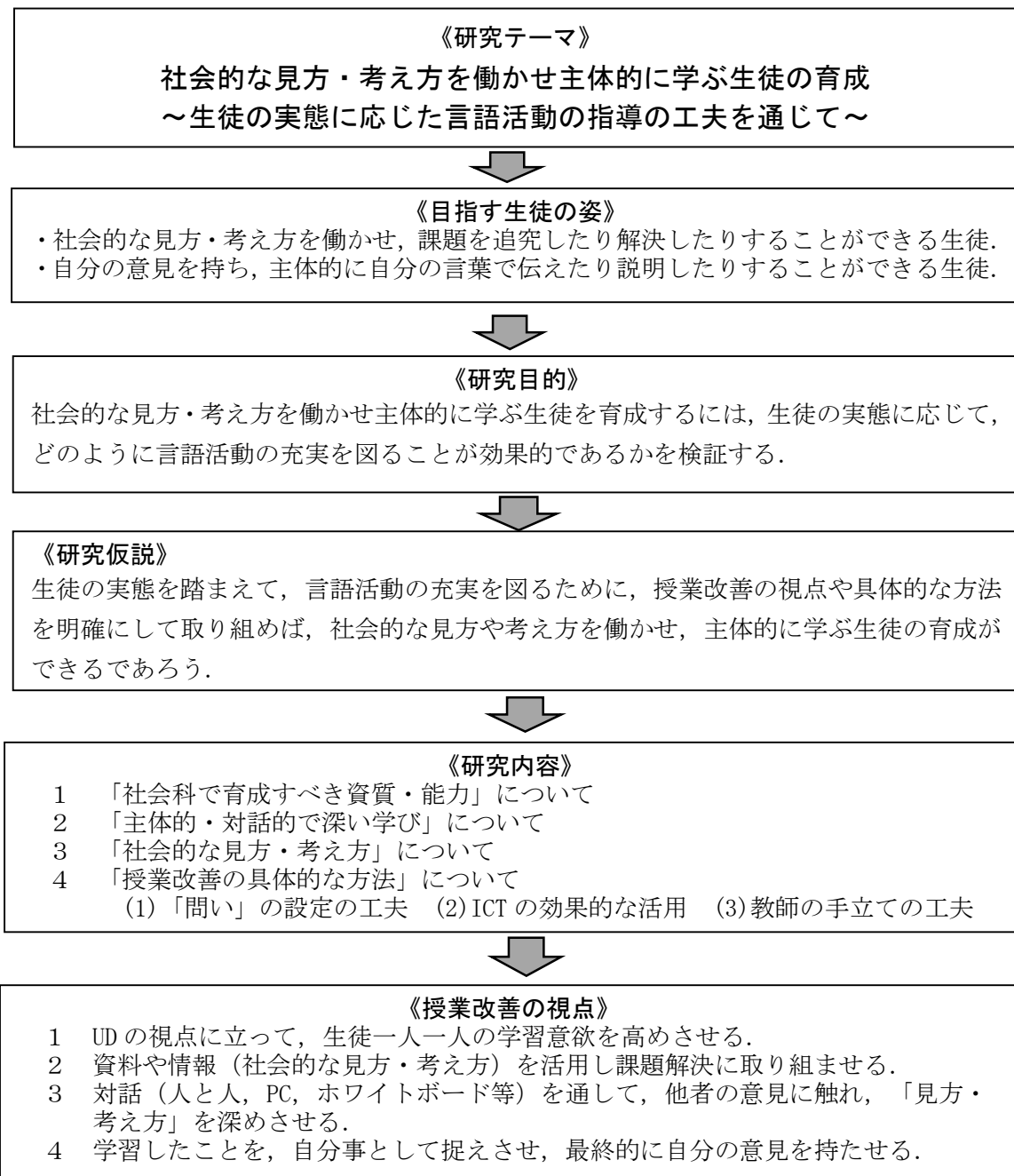
Ⅱ 研究目的

社会的な見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ生徒を育成するには、生徒の実態に応じて、どのように言語活動の充実を図ることが効果的であるかを検証する。

Ⅲ 研究仮説

生徒の実態を踏まえて、言語活動の充実を図るために、授業改善の視点や具体的な方法を明確にして取り組めば、社会的な見方や考え方を働かせ、主体的に学ぶ生徒の育成ができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 「社会科で育成すべき資質・能力」について

中学校学習指導要領（平成 29 年告示解説）社会編には、社会科において育成を目指す資質・能力について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの柱が示されている。「知識及び技能」とは、我が国の国土と歴史、政治・経済、国際関係に関する理解や様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能等。「思考力、判断力、表現力等」とは、多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題解決に向けて選択や判断したりする力や思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力等。「学びに向かう力、人間性等」とは、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度や我が国の国土や歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等と示されている。

この 3 つの資質・能力の柱は、「子どもたちが将来に生かして欲しい 3 つの力」だと筆者が理解することで、今後の指導に生かしていきたいと考えた。

2 「主体的・対話的で深い学び」について

中学校学習指導要領（平成 29 年告示解説）社会編には「主体的・対話的で深い学び」については、必ずしも 1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、設定（単元デザイン）し、少しずつ学びを深めていくものであり、深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要であること。また、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、その確実な習得を図ることを重視することと示されている。

以上のことから、これらのことを今後の授業実践に繋げていきたいと考え、ポイントとして筆者なりに捉えた内容が以下の(1)～(3)であった。

- (1) 毎時の授業をビルドアップすることを意識しながら積み重ねていくこと。
- (2) 知識は大事であり、生徒が主体的に得るために、どのような手立てで習得させていくか工夫すること。
- (3) 子どもの力を信じて任せることや個別の支援も必要不可欠であるということ。

3 「社会的な見方・考え方」について

中学校学習指導要領（平成 29 年告示解説）社会編には「社会的な見方・考え方」について「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする視点や方法であると考えられる」と示されている。

また、社会科の授業づくりに関する様々な著書を発行している川端は「見方・考え方は学びを照らす明かり」と表現している。イメージとしては、生徒が目標達成や課題解決に到達するには道筋がある。その道を照らす方向性が考察や構想の視点や方法、それが「見方・考え方」と示されている。

つまり「見方・考え方」が明確であれば、どのような知識・技能を活用しながら、どのような視点や方法で思考・判断・表現すれば良いのか、生徒は明確にイメージすることが

でき、生徒の動きは能動的で主体的になるのではないかと考えることができると述べている。（図1を参照）

そのような観点からも「見方・考え方は学びを照らす明かり」という言葉は、各教科にも通じる考え方だと捉えることができる。

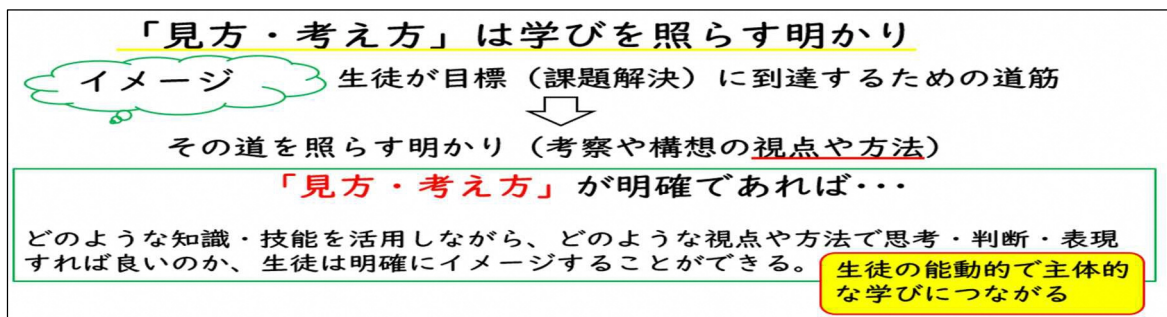


図1 「見方・考え方」のイメージ（川端の著書を参照し筆者が作成）

4 「授業改善の具体的な方法」について

研究仮説の中に「授業改善の視点や具体的な方法を明確にし」という文言がある。この文言は今回の研究の中で「核」となるものであった。そこに至った大本には、生徒の実態がある。筆者が感じた生徒の実態として、頑張っている生徒、個性豊かな生徒が多い。

一方で学習意欲が低く、読む・書く・聞くことや授業に参加することが難しく困っている生徒もいると捉えた。そういった中で、個性豊かな生徒が多いからこそ、生徒全員が授業に参加し、みんなで学んで欲しいという強い気持ちが芽生えてきた。このような生徒の実態を踏まえ、生み出されてきたことが、授業改善の視点や具体的な方法を明確にするということである。また、これらのことを明確にできたことは、「これまでの指導観からの転換」のきっかけにもなった。さらに、研究テーマ「社会的な見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ生徒の育成～生徒の実態に応じた言語活動の指導の工夫を通じて～」を目指していく中において、必須であり「土台」となる視点や方法であった。

授業改善の視点に関しては、IV研究構想図の中で示している。ここでは、授業改善の具体的な方法について述べる。

具体的な方法は以下の3つを柱として、授業実践に取り組んできた。

(1) 問いの設定の工夫 (2) ICTの効果的な活用 (3) 教師の手立ての工夫

この3つの柱について、(1)～(3)の順で述べる。

(1) 問いの設定の工夫とは

「問い」の設定をどうすればいいか。ポイントとして、以下の3点を捉えた。

- ① 生徒が追究したくなるような「問い」か？
- ② 生徒にとって身近な「問い」か？
- ③ 自分事として捉えられる「問い」か？

「問い」によって、子どもは主体的に意欲を持って考えることができる。また、最初は教師側からの「問い」であっても生徒自身が学習している中で、自分で「問い」を持ち学習を主体的に進めていく、問いが問いを呼ぶということが考えられる。そのことを意識しながら、指導に生かしていきたいと考えた。

(2) ICT の効果的な活用とは

I テーマ設定の理由でも述べたが、宮古島市においても、国の GIGA スクール構想の施策の下、児童生徒 1 人 1 人の可能性を引き出す「個別最適な学びの充実」に向け、ICT 機器を効果的に活用した授業づくりを一層推進している。

生徒の実態について先述したが、生徒全員が授業に参加し、社会的な見方・考え方を働かせ主体的に学んでいくためにも ICT はとても重要なツールであった。

本研究においては、GoogleJamboard を主に活用し、生徒に視点を示したり、見通しを持たせたりすることで生徒の学びを進めていくことが、授業実践において大切であると考えた。

(図 2、図 3 を参照)

Jamboardを使ってやって欲しいこと(3つ)

- ①自分の意見を書く。(付箋紙の色も決めてね)
- ②書いた内容を根拠(理由)をもって説明する。
- ③クラスメイトの意見にふれ、自分の考えを深める。

図 2 学習活動の視点

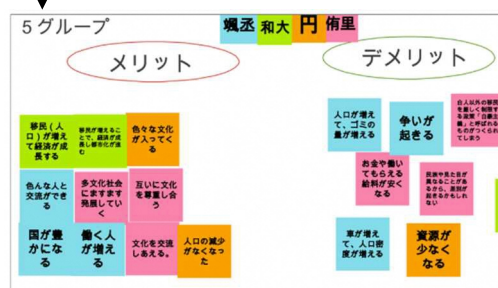


図 3 生徒の意見の例

(3) 教師の手立ての工夫とは

本研究では、地理的分野(4時間:2022年11月)歴史的分野(11時間:2023年2月～3月)の検証授業を2クラスで実施してきた(計30時間)。

それを通して、教師の手立ての工夫として、改めて大切であると捉えたり気づいたりしてきた事項が下記の内容であった。

- ①教師の事前の言葉かけ・視点の提示等
- ②これまでの指導観(指導方法)からの転換
- ③板書の工夫(歴史的分野)
- ④単元を見通した単元計画の工夫
- ⑤肯定的な価値付けを行い、生徒が進んで学ぼうとする意欲を引き出す言葉かけ

VI 授業実践(第1学年)

1 単元の概要

〈地理的分野〉(2022年11月)

単元名	第2章 世界の諸地域
内容のまとまり	B(2) ⑥オセアニア
単元の目標	・他地域との結びつきやオセアニア州という地域に着目し、白豪主義から多文化社会への転換などを取り上げながら、グローバル化の進展による他地域との結びつきの変化など地球規模的な課題やオセアニア州の魅力について意欲的に追究する。
働かせる見方・考え方	オセアニアの州の位置、自然環境、植民地支配と移民の歴史や変化等を視点に考察し、表現する。

〈歴史的分野〉（2023 年 2 月～3 月）

単元名	第 2 章 武家政権の成長と東アジア
内容の まとめ	B (2) 中世の日本
単元の目標	・武士が台頭し、武家政権が成立して、武士による支配が全国に広まり、武家政権が発展していったことや東アジア世界との関わりを背景に、鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことについて理解を深めるとともに、資料を活用し、効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・中世における自治的な仕組みの発生、武士や民衆の活力を背景とした新しい文化の誕生といった社会の変化を、農業など諸産業の発達、政治の動き、東アジアとのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり思考したことを説明したり、議論したりすることができる。 ・中世の日本に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
働かせる 見方・考え方	時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力や歴史の流れを捉え、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力を身につけ、表現する。

2 単元の評価規準 「オセアニア州」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・オセアニア州に暮らす人々の生活を基に、オセアニア州の地域的特色を大観し理解している。	・オセアニア州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

「中世の日本」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
・鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立たことを理解している。また、北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。さらに農業など諸産業の発達、自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社	・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。また、中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。		
--	--	--

3 単元の指導と評価の計画

学校で重点的に育成を目指す「資質・能力」と本単元での活動（学びの姿）		
〈創造する力〉 ① 諸資料から地理・歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる力	〈協働する力〉 ② 他者の意見を理解し、受け入れる力 ③ 他者と協力・協働して課題を解決する力	〈自立する力〉 ④ 課題を主体的に追究する力

【単元を貫く問い】

オセアニア州	あなたにとってオセアニア州の魅力って何だろう？
--------	-------------------------

	上段：本時の問い	評価		評価規準（評価方法）	資質・能力
	下段：◎ねらい ◇学習活動	重点	記録		
1	オセアニア州はどんなところ？	知		【知】地図や雨温図、グラフなどの資料から、本時の問いにつながる情報を適切に読み取り、オセアニア州の自然環境やヨーロッパとの歴史について大まかに理解している。 (記述分析・行動観察)	① ②
	◎オセアニア州の国々や自然、ヨーロッパとの歴史などの基本的な特色を理解させる。 ◇単元での学習内容をつかむ。 ◇自然環境についてまとめる。 ◇オーストラリアへの植民地支配と移民の歴史や変化をまとめる。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
2	オーストラリアや日本にとって移民が増えて方がいいの？	知思		【知】資料から本時の問いにつながる情報を適切に読み取り、まとめている。 【思】本時の問いで得た知識を生かしたり、他者の意見を聴いたりすることで、自分の意見を持ち説明している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③
	◎オーストラリアにおける移民増加について理解し、移民社会について追究させる。(Jamboard の活用) ◇移民増加のメリット・デメリットを考える。 ◇これからの日本社会について考える。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
3	あなたはオーストラリアと日本の結びつきはこれからどうなっていくと思う？	知思	○	【知】本時の問いにつながる様々な資料を適切に読み取り、オセアニア州（オーストラリア）の産業の特色を理解している。 【思】日本のオーストラリアの結びつきが強い（弱い）ことを理解し、これからの結びつきはどうなっていくのかを思考している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③ ④
	◎オーストラリアを中心としたオセアニアの産業の特色や既習事項を生かし、日本とオーストラリア結びつきについて追究させる。(Jamboard の活用) ◇オーストラリアと日本との結びつきは、「強い・弱い」について考える。 ◇資料（グラフ、写真など）を読み取ることにより、オーストラリアと日本やアジアが深い関わりがあることに気づく ◇これからのオーストラリアと日本との結びつきについて考える。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				

4	あなたが考えるオセアニア州の魅力とは？	知 思 態	○	【態】自己の学習についてふり 返り、学びの確認や調整をしようとしている。 【思】「単元を貫く問い」に対して、獲得した知識を活用して表現している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③ ④
	◎これまでの既習事項を生かし、本単元の問いを自分なりに表現したり、説明したりする中で単元を通して、身についたこと、理解したことをふり返させる。 (Jamboard の活用) ◇既習事項を確認し、地理的な見方・考え方を働かせ学習の成果を表現する。				

【単元を貫く問い】

中世の日本	あなたが中世にタイトルをつけるとしたら？
-------	----------------------

	上段：本時の問い（学習課題）	評価		評価規準（評価方法）	資質・能力
	下段：◎ねらい ◇学習活動	重点	記録		
1	武士とは、（ ）人たち？	知		【知】教科書などの資料から、本時の問いにつながる情報を適切に読み取り、源氏と平氏が大きな力をもつようになった背景や平清盛が政治の実権を握るきっかけとなった出来事、平氏政権の経済的な基盤が何であるか(日宋貿易)を理解している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③
	◎武士が台頭してきた理由や地方の反乱をしずめることを通し、武士団が成長し自立していったことや清盛の政治の特色を、おおまかに理解させる。(Jamboard の活用) ◇単元での学習内容をつかむ。 ◇武士はどのような過程を経て権力を高めたのか、平氏はどのような出来事をきっかけにして実権を握ったのか資料等から読み取ったり、書いたりすることで理解する。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
2	鎌倉時代、武士の政治の特徴は？	知		【知】教科書などの資料から、本時の問いにつながる情報を適切に読み取り、理解している。 【思】鎌倉幕府の成立した背景について、主従の結びつきに着目して考え、適切に表現している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③
	◎鎌倉幕府は御恩と奉公の主従の結びつきによる御家人制度を基盤としていたことや承久の乱を通じて、幕府の全国支配と執権政治が確立したことを理解させる。 (Jamboard の活用) ◇鎌倉時代が成立するまでの流れを掴む。 ◇鎌倉時代の政治の特色を資料から読み取ったり書いたりしながら理解する。 ◇鎌倉幕府が武士の支持を得た理由を、幕府と武士（御家人）の立場から考える。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
3	あなたの推しは、平清盛？源頼朝？	思	○	【思】これまでの既習事項を生かし、多面的多角的に自分の意見を持ち、表現することができている。 (記述分析・行動観察)	① ② ③ ④
	◎1時、2時の既習した事項に関連させながら、清盛と頼朝の政治について追究させる。(Jamboard の活用) ◇清盛と頼朝の政治の特色を掴む。 ◇自分の意見を表現する。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				

4	元寇（蒙古襲来）に勝利して、良かったのか？良くなかったのか？	知 思	○	【知】資料から、本時の問いにつながる情報を適切に読み取り元寇について大まかに理解している。 【思】元寇が国内に及ぼした影響について考えている。蒙古襲来以後の幕府と御家人の関係の変化を考察し、御家人たちが鎌倉幕府に不満をもつようになった理由を「御恩」と「奉公」という言葉を用いて適切に表現している。 （記述分析・行動観察）	① ② ③ ④
	◎モンゴル帝国の成立が世界や東アジアに与えた影響を、領土の拡大を文化の交流の視点や蒙古襲来が幕府と御家人との関係に与えた影響を、御恩と奉公の主従関係から考えさせる。（Jamboard の活用） ◇2度の蒙古襲来と幕府の対応について調べる。 ◇幕府、御家人それぞれの立場から考える。 ◇元寇が幕府の衰退に繋がったことを掴む。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
5	足利義満は（ ）人？	知 思		【知】日本（室町幕府）・明・高麗（朝鮮）・倭寇との関係を、政治的な要求や貿易品名などの経済的な関係も含め適切にまとめ、理解している。 【思】足利義満という人物や行った政策を考察し、適切に表現している。 （記述分析・行動観察）	① ② ③ ④
	◎室町幕府は日明貿易により大きな利益を得ていたことやその中心となった足利義満の政治について理解させる。（Jamboard の活用） ◇建武の新政から南北朝の内乱の終結までの主な歴史的出来事を確認する。 ◇様々な情報を読み取り、義満について考える。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
6	あなたは、室町時代のどの職業をやりたい？	知		【知】資料などで示されている職業（商業と工業）を理解している。 【思】室町時代に職人の種類が飛躍的に増加したことや商業がさかんになった理由や、この時代にやっていた職業について考察している。 （記述分析・行動観察）	① ② ③
	◎農業生産力を上昇したことで様々な手工業が登場し、流通の発達を促したことや手工業の発達から商品経済がさかんとなり、貨幣経済が成長したことを理解させる。（Jamboard の活用） ◇室町時代において、職業（産業）と交通はどのように発達したのか、商品経済がさかんになったこと、貨幣経済が成長したことを資料などから読み取り理解する。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
7	一揆を起こした人々の願いは？	知 思		【知】各地で起こった一揆を地図や表などを用いて適切に読み取り、村や都市でそれぞれどのような自治が行われていたのか理解している。 【思】室町時代の人々が、「ヨコのつながり」によって目的（願い）を実現しようとしたことを、一揆などの行動をもとに考察し、適切に表現している。 （記述分析・行動観察）	① ② ③
	◎自力救済の社会の中で、共同体が強固になり、独自の行動を起こすようになったことや村や都市の共同体で自治が行われるようになったことを理解させる。（Jamboard の活用） ◇争いや戦乱が続くなかで、人々はどういう行動を起こしたのか、資料などからその具体例を見つけ出して読み取る。 ◇動画を視聴し理解を深める。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
8 【本時】	あなたは戦国時代になって、良かったと思う？良くなかったと思う？	知 思	○	【思】戦国時代について、様々な角度から考察し、自分の考えや他者の意見にふれながら適切に表現している。 （記述分析・行動観察）	① ② ③ ④
	◎前時までの既習事項を生かしながら、戦国時代に生きた人々（戦国大名・農民・武士など）の立場について追究させる。（Jamboard の活用） ◇前時の既習事項を生かし、下剋上の風潮や応仁の乱をきっかけに、各地でどのような勢力が新たに力をつけたのか考える。 ◇戦国大名、武士、農民等、それぞれの立場				

	で多面的・多角的に考える。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。				
9	鎌倉時代と室町時代の文化の特色を、それぞれ漢字一文字で表現すると？ ◎鎌倉時代には武士の気風と合った力強い文化が生まれたことや室町時代は、武家と公家の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式をもつ文化が形成され、現代につながっていることを理解させる。 (Jamboard の活用) ◇鎌倉文化はなぜこのような特色なのか時代背景を考える。 ◇室町文化は、年中行事、衣服、食生活、住居などで現代につながる文化や生活様式ができたことに気づかせる。 ◇問いへの答えを各自でまとめる。	知 思	○	【知】時代背景や現代の家庭や地域で見られる文化や生活様式等に注目し、鎌倉時代や室町時代の文化を理解している。 【思】鎌倉文化や室町文化の特色をとらえ、他者の意見にも触れながら適切に表現している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③ ④
10	中世にタイトルをつけるとしたら？ ◎これまでの既習事項を生かし、中世がどんな時代だったかを考えて、タイトルをつけさせる。(slide の活用) ◇既習事項を確認するとともに、歴史的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。 ◇根拠を大切にしながらタイトル(短い文章、キーワード等)をつける。	思 態	○	【態】自己の学習についてふり返り、学びの確認や調整しようとしている。 【思】「単元を貫く問い」に対して、獲得した知識を活用して表現している。 (記述分析・行動観察)	① ② ③ ④
11	中世の沖縄にタイトルをつけるとしたら？ ◎室町時代に琉球王国が成立し、地理的な特質を生かした中継貿易を行っていたことなど、中世の沖縄について追究させる。 (Jamboard の活用) ◇中世の沖縄の情報を教科書やネットから収集する。 ◇収集した情報を基にグループでタイトを考え、発表する。	思 態	○	【態】【思】自分なりのテーマをもち、中世の沖縄について追究している。	① ② ③ ④

4 本時の学習指導について

(1) 単元について

①教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会科編中項目「(2)中世の日本」に基づいている。この中項目では、12世紀ごろから16世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえ、課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。

また、この中項目は従前の「(3)中世の日本」が政治・外交面と社会・文化面を中心とする二つの項目で構成されていたものを、世界の動きとの関連を重視する観点から、三つの事項によって構成している。この時期の我が国では、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジアの中で大きな変化が見られ、それが我が国の政治や社会、文化などに影響を与え、さらに農業など諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが成立したり、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたりしたことを捉えさせることも重要である。

②生徒観

本単元については、小学校第6学年で「3 武士の政治が始まる」「4 室町文化と力をつける人々」の中で大まかに学習している。その既習事項も生かしながら、積極的に学習に向かう生徒の姿も見られる。社会科に関するアンケートの結果からは、以下のような課題があることがわかった。

ア	自分の考えを書くことが「どちらかといえば苦手」・「苦手」	66.7%
イ	アの理由として「言葉が出てこない」	52.8%
ウ	図や写真、グラフなどの資料を根拠（理由）として、自分の考えを説明することが「どちらかといえば苦手」・「苦手」	61.1%

一方で、社会科の授業では、楽しく学習することが「できている」・「どちらかといえばできている」と解答した生徒が「80.6%」に上っている。また、情緒学級の生徒は、支援学級に在籍しているが学校生活の大半は特定の教科（国語・数学）を除いては協力学級で授業を行っている。社会科の授業に関しては、少しずつ取り組む様子は見られるが、丁寧な机間指導と生徒同士の学び合いが重要だと考える。本単元では、生徒が楽しく学びに向かいながら、上記のアンケートの課題解決が少しでも図られるような「問い」の設定やICTの活用、学習形態の工夫を実践しながら、生徒の知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力等を身につけさせたい。

③指導観

社会科に関するアンケートから、上記（ア・イ・ウ）の課題があることがわかった。このような生徒の課題は、私のこれまでの授業実践にも課題があると捉えることができる。したがって、本教材を指導するにあたっては、生徒の課題や実態を踏まえ次の点を十分配慮して指導を行っていく。

- ・UDの視点に立って、生徒一人一人の学習意欲を高めさせる。
- ・資料や情報（社会的な見方・考え方）を活用し課題解決に取り組ませる。
- ・対話（人與人、タブレットPC等）を通して、他者の意見に触れ、見方・考え方を深めさせる。
- ・学習したことを、自分事として捉えさせ、最終的に自分の意見を持たせる。

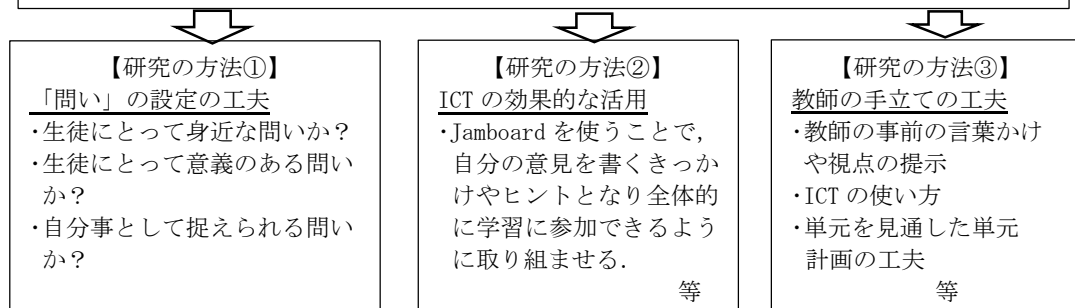
(2) 研究テーマと本単元との関わり

①研究との関わり

【研究テーマ】 社会的な見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ生徒の育成 ～生徒の実態に応じた言語活動の指導の工夫を通じて～
--

②研究方法と本単元との関わり（研究仮説から）

【授業改善の視点】 ・UDの視点に立って、生徒一人一人の学習意欲を高めさせる。 ・資料や情報（社会的な見方・考え方）を活用し課題解決に取り組ませる。 ・対話（人與人、PC等）を通して、他者の意見に触れ、見方・考え方を深めさせる。 ・学習したことを、自分事として捉えさせ、最終的に自分の意見を持たせる。



(仮説) 本単元においても、生徒の実態を踏まえて、言語活動の充実を図るために、授業改善の視点や具体的な方法を明確にして取り組めば、社会的な見方や考え方を働かせ、主体的に学ぶ生徒の育成ができるであろう。

①本時のねらい

前時までの既習事項等を生かしながら，戦国時代に生きた人々（戦国大名・農民・武士・商工業者・天皇等）の立場から多面的・多角的に追究させる。

②本時の評価基準

【思】戦国時代について，さまざまな角度から考察し，自分の考えや他者の意見にふれながら適切に表現している。（記述分析・行動観察）

③本時の授業の工夫

ICT（Jamboard）を活用することで，生徒が自分の意見や他者の意見に触れながら，自分の考えを深めたり，社会的な見方・考え方を働かせたりしながら歴史を捉えさせ，最終的に自分の意見を持たせたい。

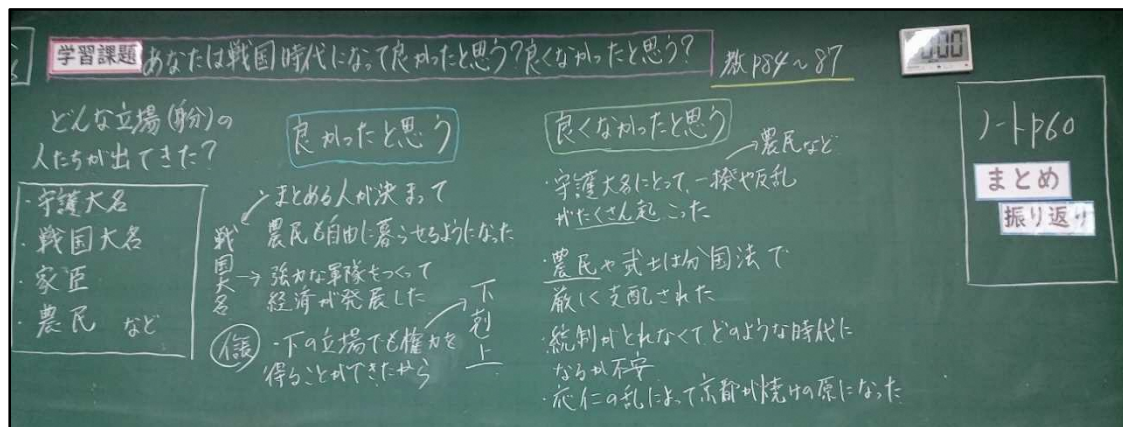
(4)展開

	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される生徒の学びの姿	〔評価規準〕 (評価方法)
導入 (7分)	1 既習事項の確認 2 全体での思考	○テストの関係で本時まで少し時間が空いている為，これまでの学習の流れをスライドで確認する。 ○戦国時代，どんな立場（身分）人たちが出てきたか確認する。 ★戦国大名・農民・武士・商工業者・天皇等と答える。 ★教師との対話を通して，本時の学習課題へ。	
展開 (36分)	3 学習課題（問い）の確認 学習課題 あなたは戦国時代になって，良かったと思う？良くなかったと思う？		
	4 協働的な学び	○Jamboard への記入の仕方を確認する。 ○どの立場（戦国大名・農民・武士・商工業者等）で考えるかは生徒に判断させる。 ★教科書やネットの資料を根拠にしながら，Jamboard に自分の意見を書いていく。 ○なかなか意見が出ない生徒は，他の生徒の意見も見ながら参考にするように言葉をかける。【画面上を通して他者（級友）の力をかりる】 ○視点を持たせ，グループ内での対話を促す。 ★グループ内で，『戦国時代になって良かった？良くなかった？』について話し合う（議論）。 ★各グループからの意見を出し合う。 ○各グループの意見を板書する。	【思】教科書やネットの資料等から自分の意見を表すことができる。 (記述分析・行動観察) 【思】他者の意見に触れながら，グループで対話している。 (行動観察)
終末 (7分)	5 まとめ 6 ふりかえり	○記入するノートのページを確認する。 ★自分の意見をノートに記入する。 ○書いた内容を伝え合うように促す。 ★近くの人同士で，自分の意見を伝え合う。 ○時間があれば，数名の生徒に発表させる。	【思】自分の意見を書き，表現できている。 (記述分析・行動観察)

(5) 板書計画 (案)

ノート p 66	〈学習課題〉あなたは戦国時代になって、良かったと思う？良くなかったと思う？		
<u>どんな立場(身分)の人たちが出てきたの？</u> 戦国大名、 農民、武士、 商工業者、天皇	良かったと思う 生徒の意見 (グループの代表)	良くなかったと思う 生徒の意見 (グループの代表)	ノート p 60 〈まとめ〉 〈振り返り〉

〈実際の板書〉



VII 結果と考察

《研究仮説》の検証

生徒の実態を踏まえて、言語活動の充実を図るために、授業改善の視点や具体的な方法を明確にして取り組めば、社会的な見方や考え方を働かせ、主体的に学ぶ生徒の育成ができるであろう。

【結果】

ここでは、研究仮説にある「授業改善の具体的な方法」を中心に述べる。また、それについては、V 研究内容 4 「(1) 問いの設定の工夫 (2) ICT の効果的な活用 (3) 教師の手立ての工夫」について示している。

(1) 問いの設定の工夫

① 地理的分野

〔事例 1：図 4 参照〕

これまでの既習事項等も踏まえ、「移民」の方が生徒にとってより身近なワードだと考えた。また、授業展開では、視点を明確にすることで、移民増加のメリット・デメリットを「見方・考え方」を働かせながら、主体的に学ぶ生徒の姿を見ることができた。

○生徒にとって身近な「問い」か？

〈改善前〉「多文化社会って、どんな社会？」



〈改善後〉「オーストラリアや日本にとって、
移民って増えた方がいいの？」

図 4

〔事例 2：図 5 参照〕

改善後は「日本」というワードを活用した。その中から日本とオーストラリアの関係を資料から読み取りながらオーストラリアを身近

に捉え、意欲的に学ぶ姿がみられた。一方で、改善前の問いは、全体的に生徒の動きが鈍く、学習意欲の低下がみられた。

○生徒にとって身近な「問い」か？

〈改善前〉「オーストラリアの産業発展のキーワードは？」

↓

〈改善後〉「あなたはオーストラリアと日本の結びつきはこれからどうなっていくと思う？」

図 5

〔事例 3：図 6 参照〕

改善前は、旅行代理店・移民局どちらかの立場を決めて、「あなたが考えるオセアニア州の魅力とは？」という「問い」だったが、生徒にとって遠い題材の「問い」

だと感じた。改善後は、

少しストーリーをつくり「問い」につなげた。「自分が旅行に行きたい！住みたい！理由を漢字一文字で表現し、オセアニアの魅力伝え、家族や友だちを説得しよう」という展開にした。改善後の「問い」は、より自分事として捉え、意欲を持ち主体的に取り組む生徒の姿を見ることができた。

○自分事として捉えられる「問い」か？

〈改善前〉

「あなたが考えるオセアニア州の魅力とは？」

※自分がどの立場（旅行代理店・移民局）でオセアニア州の魅力を伝えるか決める。

↓

〈改善後〉

「オセアニアの魅力を漢字一文字で表現し、家族や友だちを説得しよう」

※自分が〈旅行に行きたい！・住みたい！〉理由を、漢字一文字で表現し、オセアニア州の魅力を伝えよう。

図 6

②歴史的分野

〔事例 4：図 7 参照〕

改善前は、「支持」という語句を考えていたが、教材研究をしていく中で、メディアや目の前の子どもたちの言葉を聞いていると、「推し」という言葉がでてくるとに気づいた。その言葉を「問い」に設定することで、生徒が

歴史上の人物を身近に感じ「見方・考え方」を働かせ主体的に活動するのではないかと考えた。実践の中では、2人を推す根拠を示し、最終的には、どちらを「推す」のか自己決定させる展開で実践した。様々な意見を通して、主体的に学習活動に取り組む生徒の姿を見ることができた。

○生徒が追究したくなるような「問い」か？

〈改善前〉

「あなたが支持するのは、平清盛？源頼朝？」

↓

〈改善後〉

「あなたの推しは、平清盛？源頼朝？その理由は？」

図 7

〔事例 5：図 8 参照〕

改善前の「問い」だと授業実践をイメージした際に「見方・考え方」を働かせ生徒が能動的に取り組む姿を捉えづらいつと考えた。改善後の「問い」を設定することによって、前時までの既習事項等を生かしながら、戦国時代に生きた人々（戦国大名・農民・武士等）の立場から多面的・多角的に追究し「見方・考え方」を働かせ主体的に学ぶ生徒の姿をみることができた。

○生徒が追究したくなるような「問い」か？

〈改善前〉「戦国時代は、人々にとって、
どんな時代だったのか？」

↓

〈改善後〉「あなたは戦国時代になって、良かったと思う？
良くなかったと思う？」

図 8

(2) ICT の効果的な活用

①どんな効果があつたのか？

ア：生徒の視点

- ・学習意欲に低下が見られていた生徒も ICT を活用することによって、コミュニケーションが促進していた。
- ・画面を通してクラスメイトの意見を見ることで、自分の意見を書くきっかけやヒントとなり全体的に学習に参加できていた。
- ・Jamboard を通して、多くの情報を共有したことや友だちとの意見交換があつたことで「時間が早く感じた」との生徒の意見の中から、学習の充実を捉えることができた。

イ：教師の視点

- ・タブレット PC を開いて、クラスメイトの意見を見ることにより、学びにつながるということを捉えることができた。
- ・タブレット PC は「自分のノート」という新たな発想が生まれた。
- ・学習記録はタブレット PCに残るので、授業実践の振り返りや評価の材料としてもタブレット PC 上で確認できた。
- ・タブレット PC は、活動する時間が確保されると、生徒にとってより充実した学びにつながることを捉えることができた。

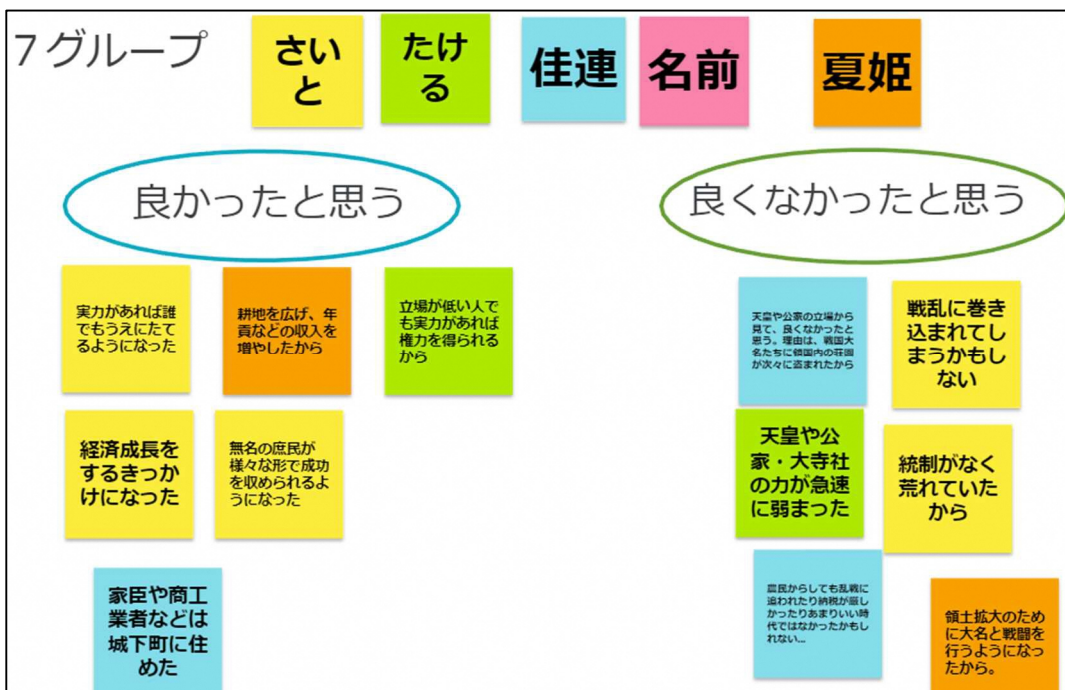
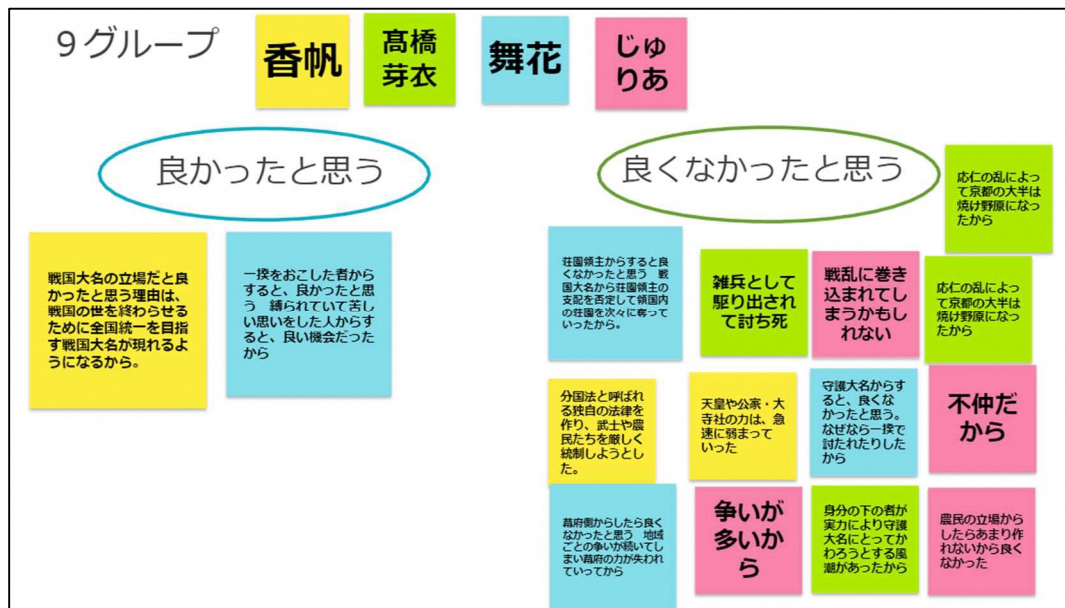
②筆者の ICT の効果的な活用を肯定する文献

立命館大学 柏木智子 教授 ICT 活用による公正な教育の推進（一部抜粋）

学習課題への回答や考え方を Jamboard 等クラウド型デジタルホワイトボードで共有することにより、子どもは仲間のそれらをまねて、自身の考えを深めたり広げたりすることができていた。ここでは、近しい能力の仲間をモデルにする模倣によって、子ども間の能力のシェアが発生し、能力の分配もなされていると考えられる。

③生徒の実践例

(付箋紙の色に名前を示すことによって、どの生徒が書いたのかすぐにわかる。実際はカラーである。)



(3) 教師の手立ての工夫

①教師の事前の言葉かけ、視点の提示等

これまでは特に視点を持たせずに、「みんなの意見を見てね。」と言葉をかけていたが、「自分の考えと違っている意見や気になる意見をしっかり見てね。見た後にその人に聞きに行つてね。」等、そういう言葉かけを事前にする事で、「誰に聞こう！」という

意識が高まったりした。またグループで対話させる際も視点を明確に示すことで、生徒同士の意見交流が活発になり、対話的で深い学びに繋がると捉えることができた。

(図9・図10参照)

☆全体の意見（漢字）を見る視点

①自分が**気になった漢字**を探してね。
 ②全体の漢字を見た後、なぜこの漢字にしたのか、
書いた人に根拠（理由）を聞きにいきます。

図9

○グループで話し合いの視点

①土一揆・山城の国一揆・一向一揆
 村の自治・都市の自治の**共通の願い**は何だろう？

②**グループ内で意見を出し合ってください。**
 (発表する代表者を決める)

図10

②これまでの指導観（指導方法）からの転換

検証授業の当初は、ノートに個人の意見を書かせ、その内容をJamboardに記入させていた。本来個人で考える時間も必要であるが、生徒の実態を踏まえると、すぐにグループ活動に取り組みせ、他者の力をかりながら、参加させていく方が望ましいと考えた。そうすることで、対話をしたり、議論したりする時間も生み出すことができ、授業の相乗効果が図られると感じた。

③板書の工夫（歴史的分野）

スライドは消えてしまう為、黒板の左側に授業のポイントを書いた。右側には、グループでの対話の中で生まれてきた生徒の意見を板書することで、板書事項を見ながら、まとめに生かす生徒もいた。

板書の工夫も生徒の充実した学びに繋がることを再認識した。(図11参照)

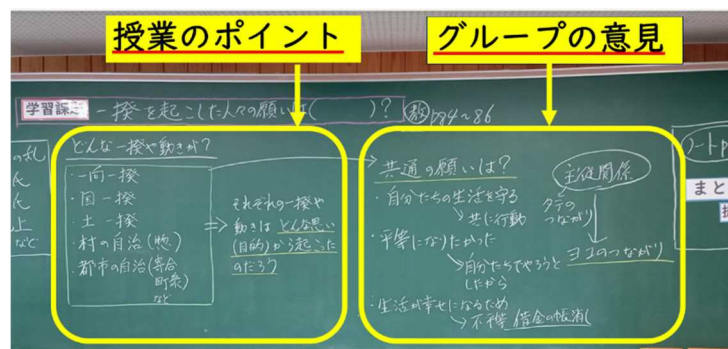


図11

④単元を見通した単元計画の工夫

検証授業では、知識・技能を習得したうえで、追究する活動を充実させるため、単元計画の工夫を行った。(図12参照) この方法を歴史的分野においても実践した。(先述した指導案を参照) どの単元や分野においても計画できると考える。

追究活動の時間を確保するため、以下のような単元計画を実施

↓

○1時→知識・技能の部分を習得
 ○2時→前時の知識技能を生かし「移民増加についてのメリット・デメリット」を追究
 ○3時→オーストラリアと日本との結びつき（知識・技能 → 追究）
 ○4時→単元のまとめ（オセアニアの魅力を漢字一文字で表現 → 思考・判断・表現）

図12

- ⑤肯定的な価値付けを行い、生徒が進んで学ぼうとする意欲を引き出す言葉かけ
今回の検証授業での例をあげると、以下の内容である。

「しっかり資料を読み取って、根拠として説明できているね」
「これまで学習したことをちゃんと生かして、意見を持つことができているね」等

このような言葉かけをより意識し、生徒の考えの価値付けを行うことで、生徒の自己肯定感が高まり「見方・考え方」を働かせ主体的に学ぶ生徒の姿をみることができた。

【考察】

(1) 生徒の振り返りの分析より

①授業改善の視点や具体的な方法を明確にする前〈改善前〉

- オセアニア州の自然環境、特色、観光などについて知って、今度行ってみたいと思った。
- オセアニアと日本の共通点を知った。
- オーストラリアは、海がきれいなことや、自然が豊かなことが分かった。
- オセアニア州の単元で、たくさん観光地の魅力があることがわかり、海がきれいということが分かった。 等

②授業改善の視点や具体的な方法を明確にした後〈改善後〉

ア：「問い」の設定の工夫後の生徒の変容

- 「オセアニアを漢字一文字で表す」という課題だったから、難しいと思ったけど、みんながたくさん書いていて、その漢字にした理由も聞けたので良かったと思ったし、自分にもちゃんと学習になったと思いました。
- オーストラリアは日本と想像以上につながりがあったし、輸入輸出の協定も初めて知った。ちゃんと自分の意見を言えたのが良かったです。
- オセアニアと日本との結びつきなどについて知ることができた、そして資料を読み取ったりまとめたりすることができるようになって良かった。
- 人々がどんな願いをしていたかなど資料などを参考にして考えることができた、また、友だちの意見などを聞いていろんな立場から見ることができた。

「問い」の設定を工夫することで、オセアニアを身近に感じ、自分事として捉える生徒の意見があった。その中でも「自分にもちゃんと学習になった」という意見は、これまでの生徒の振り返りからは、ほとんど見たことのない表現だった。生徒が、難しいながらも「問い」を追究し、課題解決に向けて取り組んだからこそ、出てきた言葉だったのではないかと考える。

また、日本とオーストラリアとのつながりについて、これまでの自分の考えを比較し、関連付けながら想像以上の深いつながりがあったことを学習したと考える。

イ:ICT の効果的な活用後の生徒の変容

- グループで意見交換をしたりなど、自分にはなかった意見を知ることができて良かった。
- グループでの話し合いやみんなの意見を通して、たくさんを知ることができました。 魅力にもたくさん気づけました。
- グループでは、争いが多い時代、お金の時代、人と人との結び付きが強まる時代で別れました。室町時代は争いが多いし、金閣寺、勘合貿易、市も盛んでお金が多く関わるし、共通の利害を持つ者同士が一揆等のヨコの結び付きを強めたからという理由に納得できました。 発表の時は聞いている人みんなが拍手をしてやりやすくて楽しかったです。
- 中世の日本では武士が政権争いをしたり、世の中を支配したりと、武士が中心の時代だったことがわかった。 また、いろんな武士が日本を支配したいという志をもっていることがわかった。そして、スライドを作ったりグループ活動の交流によりさらに中世の日本についての学びを深めることができた。 次は、中世の世界について学んでみたい。
- グループの発表から、中世は今の時代に大切な時代だったということを知ることができた。中世の書院造りや生花などの文化が今の時代に繋がってこのような当たり前な生活を送る事ができているんだなと思った。
- グループで話しあったりしながら日本の中世でどんな事が起こって誰が活躍したのか知ることができたと思う。この時代がなければ現代はここまで文化が発展して豊かな時代にはならなかったと思うから、必要な時代だったと思います。
- 私はこの単元を通して、人物について何をしたのか、武士の政治はどんな特徴があったのか、農民たちの立場からだとどうだったのかなどをグループで考えたり教えあったりすることができました。 それに他の国との関わりも考えることができたし、鎌倉文化や室町文化などの文化についてどのような文化だったのかを学ぶことができました。
- 今日は中世のまとめをしました。最初は自分の意見が持てなくて難しかったけど、教科書とか今までの授業を振り返ったりして自分の意見が書けたので嬉しかったです。 グループで発表したときに自分とは違うタイトルをつけていた人の理由とか聞いてなるほどと思えたのでいい学びになりました。 中世のことについて改めてしれたので良かったです。
- 周りの意見をよく見て、自分の考えの参考にしたり、自分の考えを周りに伝えたりすることで、他の人と一緒に考えを深めていくことを意識できた。 また、教科書だけでなくパソコンも使って情報を探し、信憑性のある情報を見極めながら調べたり、 サイトからコピーしたりするだけでなく、自分で考えたことを書いたりすることができた。 さらに、付けたタイトルに有るように、自分は宗教と身分が大切なことと感じたので、そういうところに重心をおいて学習することができた。

○私は、ジャムボードを使って友達と意見交換して行くたびに自分の気付けなかったことや知らなかったこともしれました。今回の單元の中でその中で私が印象に残っているのは、仏教や一揆についてです。今回の中世にタイトルを付けるとでは、今まで学習しことをまとめられたので良かったです。グループ活動では、私以外みんな武士の時代だと書いていたのでやっぱり印象に残ることは違うんだと思いました。まだ、理解できていないことはおおいけど、友達に聞いて理解していきたいです。

歴史的事象を現代の事象と結びつけながら、歴史を学ぶことの必要性を論述している生徒が複数いた。また「自分で考えたことを書いたりすることができた。さらに付けたタイトルに有るように、自分は宗教と身分が大切なことと感じたので、そういうところに重心をおいて学習することができた」という振り返りがあった。この生徒からは「自分なりの歴史を見る目」をもって学習している姿を捉えることができた。これらのことは、ICT(Jamboard)の活用を通して、教科書等の教材を読み取ったり、グループ活動での対話を通したりする中で、自分なりに思考し、社会的な「見方・考え方」を働かせ主体的に学んだ結果であると考えている。

ウ:教師の手立ての工夫後の生徒の変容

- グループ活動で、頑張ったことは自分が学んだことを周りに惑わされずちゃんと伝えられたことです。
- できるようになったことは、意欲的に授業に参加できたことです。武士や文化についてたくさん調べられたので良かったです。
- 今回僕はグループ活動を通して、自分の意見を現代の事と関連付けて友達に伝えることができました。そして、友だちの意見を聞く際に、中世の時代の中のどの部分に着目して話しているのか、どのようにして現代と関連付けているのかを見ながら聞くことができました。そして、自分が着眼点をおいていない部分のことを聞いて新たな気づきを発見することができました。しかも、第1節～第3節のキーワードを使い文章に説得力をもたせる力が身についたと思います。
- 中世では、戦、文化、経済などの色々な分野のことが発展した時代であると思った。更に、その文化は現代日本につながるところもあり、現代日本の文化などに大きな影響を及ぼした時代だと思います。また、この時代は、戦によって鎌倉、室町などの幕府が誕生した時代でありある意味戦によって文化が作られた時代だと言える。

○中世は色々な発見や政治の仕方があり，争いや伝統的な文化が発展していったと知れて，人物が何をどのようにして行っていたかわかることができた．鎌倉時代から室町時代まで最初は同じようなことだろうと思っていたけど，今考えると，鎌倉文化や室町文化と色々な政治や，武士の強さ，仏教に関して色々な発見や文化（時代）などがあると知れて，中世についていっぱい知ることができたなと思いました．

生徒が自ら視点を持ち，現代と中世を関連づけつつ，鎌倉時代と室町時代の文化を読み取りながら比較することができている．それは，授業での話し合いの視点を明確にしたり，単元計画を工夫したりすることで，生徒自身が自ら「見方・考え方」を働かせ，主体的に学んだ生徒の姿だったと考える．

(2) 社会科に関するアンケートの分析より（表 1-1～表 2-2 参照）

「社会科の授業で，自分の考えを書くことは得意ですか」という項目に関して，11月と3月の結果を比較したところ，1年3組の生徒は「得意」と回答した生徒が，12.3%上昇しており「苦手」と回答した生徒は，11%減少している．同じ項目に関して，1年4組の生徒は「得意」と回答した生徒が9.4%上昇しており「苦手」と回答した生徒は，14.4%減少している．

また，「社会科の授業で，自分の考えを伝えることは得意ですか」という項目に関しても，11月と3月を比較したところ「得意」と回答した1年3組の生徒が，9.3%上昇しており「苦手」と回答した生徒が，13.8%減少している．1年4組の生徒は，同じ項目に関して「得意」と回答した生徒が，3.5%上昇しており「苦手」と回答した生徒が8.5%減少している．

表 1-1 （1 年 3 組）

社会科の授業で、自分の考え を書くことは得意ですか。	11 月	3 月
① 得意	8.3%	20.6%
② どちらかといえば得意	38.9%	41.2%
③ どちらかといえば苦手	38.9%	35.3%
④ 苦手	13.9%	2.9%

表 1-2 （1 年 4 組）

社会科の授業で、自分の考え を書くことは得意ですか。	11 月	3 月
① 得意	8.8%	18.2%
② どちらかといえば得意	44.1%	39.4%
③ どちらかといえば苦手	23.5%	33.3%
④ 苦手	23.5%	9.1%

表 2-1 （1 年 3 組）

社会科の授業で、自分の考え を伝えることは得意ですか。	11 月	3 月
① 得意	8.3%	17.6%
② どちらかといえば得意	47.2%	50.0%
③ どちらかといえば苦手	27.8%	29.4%
④ 苦手	16.7%	2.9%

表 2-2 （1 年 4 組）

社会科の授業で、自分の考え を伝えることは得意ですか。	11 月	3 月
① 得意	14.7%	18.2%
② どちらかといえば得意	35.3%	51.5%
③ どちらかといえば苦手	32.4%	21.2%
④ 苦手	17.6%	9.1%

このようなアンケートの調査結果から、多くの生徒が、自分の意見を持ち、自分の考えを伝えることができてきていると捉えることができた。一方では、自分の考えを書くことや自分の考えを伝えることが苦手だと回答している生徒もいる。少数ではあるが、このような生徒への支援を考え、工夫していくことが求められる。

(3) (1) (2)の考察より

今回、「問いの工夫」や「ICT 機器の効果的な活用」「教師の手立ての工夫」による具体的な方法を実践してきた。その中で、生徒が自分の考えを書いたり伝えたりしながら、他者との交流の中で、言語活動を充実させ、自ら進んで学びを深めている姿を見取ることができた。また、授業改善を進める前提として、誰 1 人取り残さないという熱い思いを常に持つことが大切であることを再認識できた。

以上のことから、今回実践してきた授業改善の視点や具体的な方法は、生徒の実態に応じた言語活動を充実させ、社会的な「見方・考え方」を働かせ主体的に学ぶ生徒の育成するためには、有効な手段であったと考えることができた。今後はさらに、生徒自身が社会科の「見方・考え方」を働かせて、自ら問いをもって主体的に学んでいけるように、日々の授業の積み重ねを大事にしながら、一步一步進んでいきたいと考える。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 生徒にとって身近に感じ、自分事として捉える「問い」を設定することにより、生徒が課題解決に向けて社会的な「見方・考え方」を働かせ、自分の意見を書いたり、他者に伝えたりしながら主体的に学習活動に取り組むようになった。
- (2) ICT の効果的な活用により、言語活動の充実が図られ、自分の意見を持ち、クラスメイトの意見にもふれながら、自分の考えと比較したり深めたりする生徒が増えた。
- (3) 視点の提示や言葉かけを大切にすることにより、生徒の活動(Jamboard での意見交流、グループでの対話等)が能動的で主体的になった。

2 課題

- (1) 教師が「問い」を立て追究活動を実践してきたが、今後は、生徒が自ら「問い」を立て、その「問い」を追究していけるよう「手立て」を工夫していくことが必要である。
- (2) 社会的な「見方・考え方」を働かせたり、課題解決を図ったりする為に生徒自身が明確な目的をもって、情報を選択し学習活動に取り組んでいたのか見取ること(丁寧な個に応じた机間指導の実践)が求められる。
- (3) 社会的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びを促す学習指導のさらなる充実が必要である。

Ⅸ 参考文献

- 1 田中博之 『アクティブラーニング「深い学び」実践の手引き』教育開発研究所 2017
- 2 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編』 東洋館出版社 2018
- 3 川端裕介 『見方・考え方を働かせる発問スキル』 明治図書出版 2019
- 4 川端裕介 『単元を貫く学習課題でつくる歴史の授業展開』 明治図書出版 2019
- 5 川端裕介 『単元を貫く学習課題でつくる地理の授業展開』 明治図書出版 2019
- 6 福山孝弘 『月刊教職研修』 教育開発研究所 2022
- 7 宗實直樹 『深い学びに導く社会科新発問パターン集』 明治図書出版 2022